

第2回まちづくりカフェ ワークショップ

テーマ

「 長井で楽しく暮らすために自分がやりたいこと
～くるんとオープンをきっかけに～ 」

目的

- ・中心市街地や商店街の活性化に捉われず、長井市での「暮らし」の視点を持って、妄想することで、まちづくりを自分ごととして考える。
- ・実際の街歩きを踏まえたワークショップを通じて、まちづくりに興味を持ち、その後もまちづくりに関わりたいと思う人を増やす。

日時

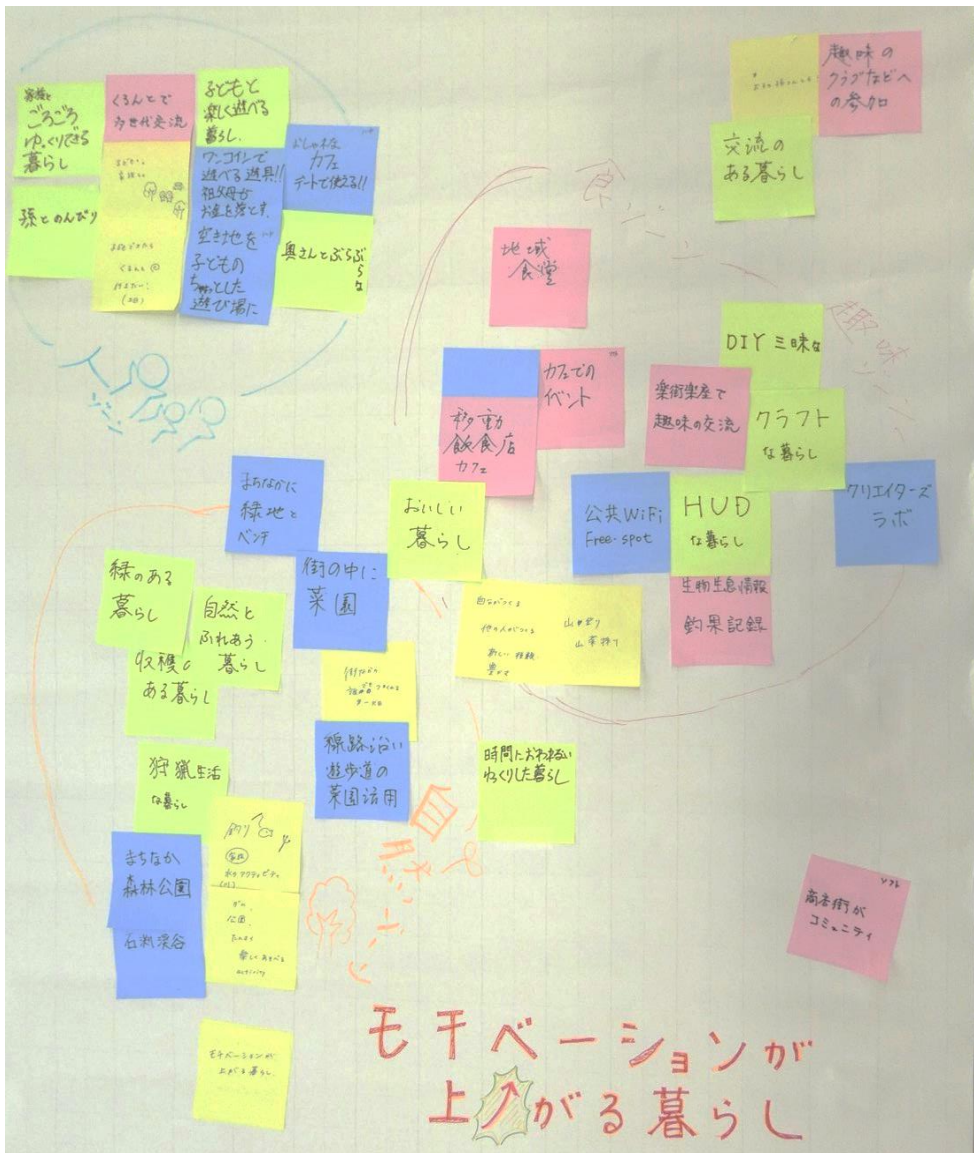
- ・令和5年9月9日(土)14:45～16:30

会場

- ・長井市旧長井小学校第一校舎

主催 山形県

A班 「モチベーションが上がる暮らし」



子どもと楽しく遊びたいな

明日から頑張るためには何がればいいだろう？

自然と触れ合う暮らしがしたい！

デートで使えるお洒落なカフェがほしい！



発表

A班では長井でどんな暮らしがしたいか話し合い、「人との交流を深めながら、誰かと過ごす暮らし」、「趣味や食などを楽しむ暮らし」、「長井の自然に寄り添う暮らし」の視点にグループ分けされました。3つの視点それぞれ重なる部分があって、「街なかに緑地とベンチがあれば家族とゆっくりごろごろできるね」や、「趣味の交流の場を街なかの施設で開けたらいいね」、「空き地を菜園にして地域の人と一緒に何かできないだろうか」等、より具体的にイメージして考えました。

共通しているのは、家族や友人とゆっくり過ごして、あるいは趣味を楽しんで、また明日からの仕事も頑張ろうという前向きな気持ちであふれていたところです。自分の時間を充実させることで、仕事に対するモチベーションも上がり、より良く長井で暮らしていけるのではないのでしょうか。

A班は、長井に住んでいたり、長井で仕事をしていたりするメンバーだったので、ほかの班よりも自分事として具体的な暮らしをイメージした意見が出ていました。「お仕事は今の暮らしにプラスα(メインが仕事ではない)」という話もありましたが、日々長井で頑張っているからこそ、出た意見ではないでしょうか。終始、今の長井での暮らしを振り返り、もっとよく暮らしていくには、と明るく前向きな雰囲気でした。明日から実践できるような話もあっていいグループワークをして頂けたと思います。



ファシリテーター 七日町商店街振興組合 菅野 美希 氏

B班 「若者にとって居場所のある暮らし」



地域でも子どもを育てたい！

“長井”だけに長い椅子を置きたいな

いろいろな人と関わる暮らしがしたい！

椅子を置くなら商店街がいいんじゃない？



発表

B班は長井市に住んでいるメンバーと市外のメンバー、それぞれの視点で、長井市がどう見えたかを話し合いました。「地域で子どもを育てられるといい」という意見などを経て、私たちは「若者にとって居場所のある暮らし」がしたいと考えました。そして、それを実現するために、「長井」という市の名前にかけて、「全長500mの長〜い椅子」を商店街に置こうとなりました。長い椅子を置くことで、商店街に買い物に来た高齢者が休憩に使ったり、中高生が集まったりして世代間の交流が図れ、若者にとって居場所のある暮らしにつながるのではないのでしょうか。

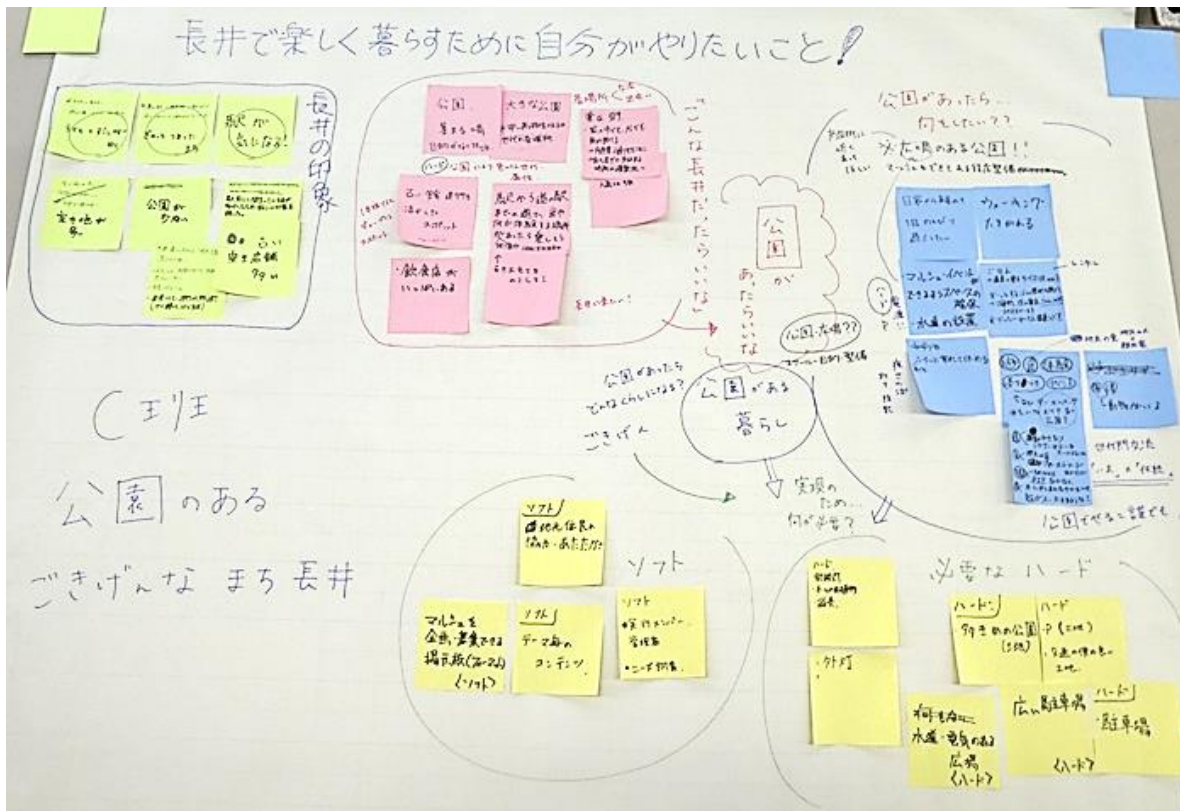


「長い椅子を作る」というところだけを聞くと突拍子のない考えに思えますが、長い椅子を置き、通路が分断されると、人々は強制的に歩くことになります。「長い椅子というインパクト」と、「自分たちが歩かないと楽しめない仕組みを作る」という、短時間でとてもいいアイデアを出してくれたと思います。長い椅子の活用方法についても、どんどん意見が出てくるなど、「できたらいいよね」ではなく、「自分たちで作ろう」という意思が強い班でした。

ファシリテーター 建築工房綴寧 佐々木 俊平 氏



C班 「公園のあるごきげんなまち長井」



目的がなくても集まれる場所を作りたい!

公園はどう?

テーマパークみたいな公園があるといいな～

若者から高齢者まで一緒に楽しみたい!



公園に緑がたくさんあるといいよね!

発表

C班は、全員が長井市外に住んでいるメンバーだったので、「長井市には公園が少ない」という気づきがあり、「どんな公園があったらいいか」を考えました。

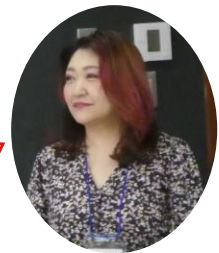
C班が考える公園は、木々に囲まれた落ち着いた場所でありながら、テーマパークのように遊べ、体験やイベントなどが行われ、誰でも気軽に来ることができます。

このような公園で、長井市の特産品や地域の方が作る郷土料理などのイベントを行えば、若者から高齢者まで、楽しく活動できます。みんながごきげんになれる公園を作りたいと思います。



この班は市外に住んでいる方のグループなので、市外の方が長井をどう見ているのか話をしました。公園や商店街、歴史的な建物があって、ほかにもベンチなどのちょっと休める場所があるというイメージを持って話を膨らませていきました。

最終的には「公園のあるごきげんなまち長井」というキャッチコピーにしましたが、市民にとってもそこで暮らしやすく、観光で来た市外の方にとっても、「長井っていいまちだな」と思ってもらい、まちを歩いてごきげんになってもらえればいいなと思います。



ファシリテーター 旧長井小学校第一校舎施設長 平 みわ 氏

総括講評

今日の議論は時間が足りなかったと思う人が多かったのではないのでしょうか。皆さんどんどん盛り上がり、最初は座って話していた皆さんが、最後には立ち上がって議論していました。最初は「自分の意見がどう思われるのか」、「こんな意見はダメじゃないか」とスタートしましたが、徐々に「自分の思いを誰か伝えたい」という気持ちが出てきたと思います。その気持ちがワークショップでは大事です。

今回は班分けごとに属性に特徴が出るようにしました。ワークショップのポイントですが、年齢を分けたり、住んでいる地域を分けたりして属性に特徴を出すと意見に違いが生まれ、よりその地域の深みを感じることができます。「ワークショップをして何になるのか」ということではなく、どうなるかはその人次第です。「今日話したことが自分の生活や、今後の自分の生活にプラスになっていく」ということがワークショップでは一番大切なことで、いろいろなことを持ち帰っていただきたいです。今日のまちづくりカフェを通じて、長井のことが少し好きになったり、長井をもっと知ろうと思ったことは間違いないと思うので、次に長井に遊びに来たときには、長井を見る目が少し変わっているのではないのでしょうか。それが今日の成果です。本日はありがとうございました。

ファシリテーター 山形まちづくり株式会社 常務取締役 下田 孝志 氏

